

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	English A		
英文授業科目名	English A		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	近藤 良子(学内連絡教官 佐藤 美弥子)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題： インターネットの普及に伴うオフィスや研究室での国際化に対応して、インターネットを用いたコンピュータ・リテラシーにおける優先順位の高い基礎技術を活用し、英語で要求されるレポート・論文・企画書などに即応できるwritingの基礎力を実習形式で具体的に学びます。</p> <p>(b) 達成目標： 翻訳サイトの間違った英訳・文法や構文だけに頼った逐語訳・和製英語から脱却し、「英文情報入手」「英文情報処理」「英文情報発信」それぞれの段階で、コンピュータ・インターネットをどのように使えば効率よく質の高い結果が出せるのか、大学院・研究室・企業で要求される「情報としての英語を使いこなす戦力」の基礎を習得するのが目標です。テキストだけでなく、デジタルカメラの写真・静止画・音声・映像・フラッシュ・ジフアニメなども駆使し、より説得力のある情報発信をめざします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>特にありません。 以下の能力があれば大丈夫です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Windowsでの基礎的なコンピュータ操作。 ・ 高校英語10段階評価で7 or 8以上。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
<p>特にありません。 以下の能力があれば大丈夫です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Windowsでの基礎的なコンピュータ操作。 ・ 高校英語10段階評価で7 or 8以上。

【教科書等】

教科書は不要。テキスト・辞書・参考文献などは「紙」のものをできるだけ使わない「ペーパーレス」での作業。

【授業内容とその進め方】

以下については、端末を含む教室内の環境整備・受講者の理解度に合わせて柔軟に対応します。

(a) 授業内容

与えられた課題をもとに、英文サイト検索をしながら写真・音声・映像・フラッシュ・ジフアニメなどを活用した英文電子レポートを作成し、ホームページへの応用力・無線LAN+モバイルでのプレゼンテーションスキル等も視野に入れた指導をします。さらにプロジェクターを介した双方向の情報交換によって現場での問題解決能力を育成し、後期PowerPointによる英語でのプレゼンテーションへの導入とします。

(b) 授業の進め方：

4月：授業計画・持参する物・評価法など説明。辞書サイト・翻訳サイトの使い方と注意点説明。課題提示。英文入カールール説明。英文打込み。作業開始。

5月：各テーマに合わせた英文サイト検索。デジタルカメラでの写真撮影。さらに音声・映像・フラッシュ・ジフアニメなどを活用し、英文電子レポート作成。

6月：デジタルカメラの写真・グラフ・表などと文字のレイアウトをホームページで応用できるよう工夫・調整し、電子レポートを完成させます。情報交換。完成した英文電子レポートの紹介と提出。

7月：情報交換。完成した英文電子レポートの紹介と提出。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ファイルなどの提出物・教室内での発表と情報交換・出席率・授業への積極的な参加度を次のように総合評価します。

(a) 評価方法：

成績評価 = (ファイルなど提出物・教室内での発表と情報交換 × 50%)
+ (出席率・授業への積極的な参加度 × 50%)

(b) 評価基準：以下の到達レベルをもって合格の基準とします。

1. 英文サイトを検索し、自分のニーズに合わせて情報入手できる。
2. 複数の英文情報を用いて、論旨・脈絡のまとまった英文レポートを作成できる。
3. ハイパーリンクなどの基本スキルを習得している。
4. 作成した英文電子レポートの内容を理解し、プレゼンテーション形式で紹介しながら双方向で情報交換できる。
5. 規定の出席率を満たしている。
6. トップダウンの正解を安易に受身で待ち続けるのではなく、積極的に授業参加できる。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 13:40 から 14:40。
場所と時間は予めアポイントメントをとって下さい。
授業中でも合い間を見て相談にのります。

【学生へのメッセージ】

コンピュータ・インターネットで要求される最優先の基礎技術を活用して、企業・大学院・研究室で戦力になる「情報としての英語」を使えるようになりたい。そんな皆さんの受講を期待しています！

【その他】

電気通信大学 平成16年度シラバス

関連図1



関連図2

No Image